

津久見 市議会だより

題字は津久見高校書道部です



白梅保育園

- 平成28年度決算の認定 P2
- 12月定例会 P4
- 市政を問う(一般質問) P6
- 災害復旧に向けての活動 P9
- 災害見舞をいただきました・ザ! インタビュー P11
- 議会の主な動き・つくりキッズ P12

平成28年度決算の認定

平成28年度決算については、台風18号による災害復旧・復興を最優先事項であることを重視し、平成29年11月8日～10日の3日間にわたり決算特別委員会を開催し、審査をおこないました。

決算の概要と審査の結果は、以下の通りです。

特別会計決算取支状況

2億6,234万8千円の繰越

一般会計決算取支状況

3億3,600万5千円の繰越

単位:千円

単位:千円

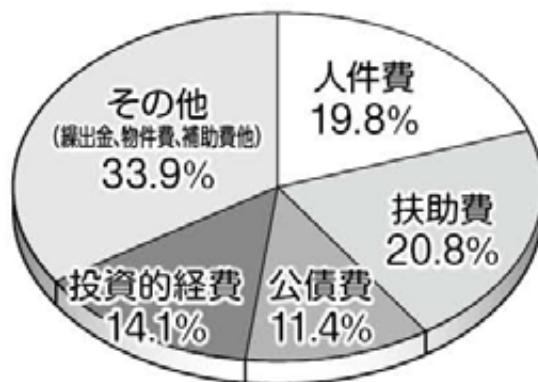
	歳入	歳出	差引残額
国民健康保険事業	3,159,216	2,979,314	179,902
津久見都市計画土地区画整理事業	109,362	109,362	0
奨学資金事業	10,431	9,038	1,393
簡易水道布設事業	46,200	45,968	232
公共下水道事業	881,647	880,498	1,149
後期高齢者医療	295,155	295,010	145
介護保険事業	2,579,904	2,500,377	79,527
合 計	7,081,915	6,819,567	262,348

	平成28年度
歳入決算額(A)	10,041,096
歳出決算額(B)	9,673,970
形式収支(A)-(B) (C)	367,126
翌年度に繰越すべき額(D)	31,121
実質収支額(C)-(D)	336,005
市民一人当たり歳出	527

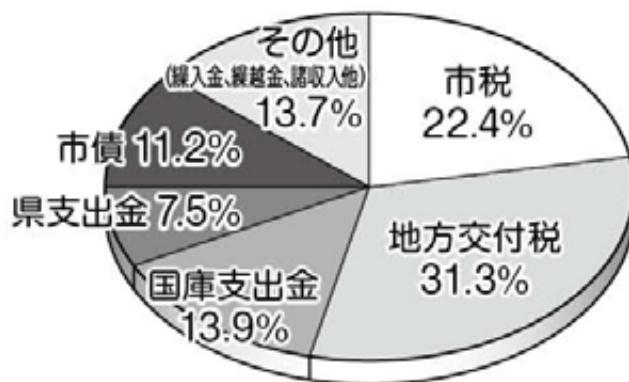
厳しい財政状況のなか、財政構造の重要な財政指標の一つである普通会計の基金残高は、平成17年度から緊急行財政改革などの財政健全化に向けての取り組みにより、徐々にではあるが改善が図られている。

一般会計決算の内訳

歳出決算額 単位:(%)



歳入決算額 単位:(%)



単位:千円

単位:千円

歳出	決算額	構成比%	区分
人件費	1,917,734	19.8	義務的経費
扶助費	2,010,829	20.8	
公債費	1,107,663	11.4	
投資的経費	1,362,611	14.1	投資的経費
その他	3,275,133	33.9	
合 計	9,673,970	100.0	

歳入	決算額	構成比%	区分
市税	2,246,032	22.4	依存財源
地方交付税	3,141,992	31.3	
国庫支出金	1,397,908	13.9	
県支出金	749,460	7.5	
市債	1,119,622	11.2	
その他	1,386,082	13.7	
合 計	10,041,096	100.0	

○決算特別委員会審査報告

一般会計の歳入決算額は、10,041,096千円、歳出決算額は 9,673,970千円で、前年比は、歳入が1,353,036千円、歳出は、1,460,568千円それぞれ減少している。歳入歳出差引額である形式収支は、367,126千円となっており、翌年度への繰越財源31,121千円を差し引いた実質収支は、336,005千円となっている。

歳入減少の要因として、消防庁舎・防災拠点施設建設事業、し尿前処理施設建設事業、学校施設環境改善事業（耐震関連）が終了したことによる市債や国庫支出金の減が挙げられる。

歳出減少の要因においては、投資的経費である消防庁舎・防災拠点施設建設事業、し尿前処理施設建設事業、青江小学校体育館危険改築事業等の大型事業終了によるものが大きく、義務的経費では扶助費が、前年比113,925千円、6.0%の増となっているが、人件費・公債費はともに減少している。

今後は、災害復旧・復興による財源確保が急務となるが、一方で財政指標（経常一般財源比率・財政力指数等）の推移を注視するとともに、財政基盤の安定に努めることが重要となる。

○平成28年度主要施策

(第5次総合計画に掲げた「誇りと自信に満ちたまち『津久見』」を目指し、6つのまちづくり基本目標に沿って行政分野毎に事業に取り組んでいる。)

単位:千円

1 健やかな暮らしを支え合う思いやりのまち (保健・医療・福祉分野)		2 郷土を想う心の豊かなひとを育てるまち (教育・文化分野)	
202,113千円		536,212千円	
予防接種助成事業	32,991 千円	小中学校特別支援員配置事業	8,261 千円
健康診査事業	16,372 千円	小中学校パソコン整備事業	3,284 千円
つくみんイキイキ健康マイレージ事業	748 千円	地域協育力向上支援事業	2,004 千円
妊婦歯科検診助成事業	75 千円	地域資源発掘事業	2,179 千円
子ども医療費助成事業	29,499 千円	津久見高校地域振興協議会助成事業	1,227 千円
臨時福祉給付金事業（当初予算分）	122,428 千円	芸術文化振興事業	7,127 千円
		市民会館リニューアル事業	512,130 千円
3 世界に誇る地域資源で活力を創造するまち (産業振興・雇用分野)		4 多様な都市活動を支える快適で潤いのあるまち (都市基盤・生活基盤分野)	
39,070千円		371,081千円	
農業担い手育成総合支援事業	3,302 千円	定住促進対策事業	16,118 千円
移住就農者対策事業	1,071 千円	市道徳浦松崎線バイパス整備事業	100,010 千円
津久見みかん等ブランド化事業	1,457 千円	道路改良事業（防災・安全交付金事業）	75,177 千円
有害鳥獣捕獲事業	18,945 千円	橋りょう改良事業（防災・安全交付金事業）	39,093 千円
食観光推進誘客特別事業	5,000 千円	空家対策事業	9,053 千円
観光周遊性創出事業	2,036 千円	消防ポンプ自動車整備事業	64,694 千円
おもてなしトイレ改修事業	7,259 千円	避難地・避難路整備事業	33,345 千円
		防災拠点再生可能エネルギー導入事業	33,267 千円
		自主防災組織活動事業補助金	324 千円
5 美しい津久見の環境を次世代へつなぐまち (循環型社会・環境保全分野)		6 未来の津久見を共に考え行動するまち (市民活動・行財政分野)	
254,404千円		14,419千円	
浄化槽設置整備事業補助金	3,152 千円	婚活サポート推進事業	925 千円
ドリームフューエルセンター維持管理費	221,179 千円	まちづくり推進事業補助金	511 千円
し尿前処理施設維持管理費	30,073 千円	大分・愛媛地域間交流事業	200 千円
		地域おこし協力隊・集落支援員活動事業	3,936 千円
		ふるさと寄附金特産品返礼品事業	8,847 千円

津久見市水道事業決算 5,473万1千円の黒字

- ◆老朽配水管布設替工事 16,399千円
 - ・刀自ヶ浦地区、徳浦宮町、入船東町
- ◆配水管布設及び布設替工事 48,363千円
 - ・市道徳浦松崎線(水晶山工区)、千怒地区、岩屋口地区、深良津地区 他
- ◆電気設備工事 616千円
 - ・福良砂防ダム建設に伴う通信施設移設工事 他
- ◆その他 6,150千円
 - ・第5水源井戸改修工事、千怒久保地区消火栓移設工事 他

◎審議の結果については、採決の結果、すべての議案について原案の通り認定するものと決しました。

事業実績表

区分	平成27年度	平成28年度
給水人口	17,137人	16,780人
給水戸数	7,581戸	7,526戸
有 収 率	85.59%	84.73%

※有収率とは、供給した配水量に対する料金徴収の対象となった水量の割合を示します。

12月定例会

(委員会に付託された議案)

総務常任委員会

業の施設に係る固定資産税の課税免除を行うため市の条例を一部改正するものです。

● 津久見市職員の給与に関する条例等の一部改正について

● 津久見市職員の給与に関する条例等の一部改正について

● 平成30年度固定資産税等の納期の特例に関する条例の制定について

説

平成30年度が土地及び家屋の評価替えの基準年であり、土地及び家屋に係る評価業務等の事務量が通常より増加する平成30年度に限り、固定資産税及び都市計画税の第1期の納期を通常より1か月遅らせ、「5月15日から5月31日まで」にするための特例条例を制定するものです。

● 全会一致で可決されました。

● 津久見市税特別措置条例の一部改正について

● 地域経済牽引事業促進法(略称)の施行に伴い、地域の成長発展基盤強化に資する事

30年1月から6月までの半年間、給料表の等級区分により100分の1から100分の2の減額を行うため、臨時条例を新規に制定するものです。

● 全会一致で可決されました。

● 専決処分の承認を求めることについて(平成29年度一般会計予算と平成29年度簡易水道布設事業特別会計予算の補正)

● 予算常任委員会

● 全会一致で可決されました。

(委員会に付託された議案) 社会文教建設常任委員会

● 津久見市国民健康保険税条例の一部改正について

● 津久見市国民健康保険税条例の一部改正について

● 台風18号により被害を受けた国保被保険者に対して国民健康保険税の減免を行うための条例の改正を行うものです。

● 全会一致で可決されました。

● 津久見市職員の給与の臨時条例に関する条例の制定について

● 人事院勧告による給与改正条例を上程するにあたり、一般職の職員給料について平成

(委員会に付託された議案)
予算常任委員会

● 専決処分の承認を求めることについて(平成29年度一般会計予算と平成29年度簡易水道布設事業特別会計予算の補正)

● 予算常任委員会

● 全会一致で承認されました。

● 説 9月の台風被害のため緊急に行つた復旧関連予算を専決処分したものです。

● 説 9月から後に関係する納期分について減免するものです。

● 全会一致で可決されました。

● 平成29年度国民健康保険事業特別会計予算の補正について

● 平成29年度簡易水道布設事業特別会計予算の補正について

● 平成29年度公共下水道事業特別会計予算の補正について

● 平成29年度津久見市後期高齢者



説 固定資産評価審査委員会委員の任期満了に伴い、新たに佐藤智恵子氏を任命するものです。

●津久見市固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求める意見書（9ページ参照）

結 全会一致で可決されました。

○平成29年9月台風第18号災害における特別の財政支援を求める意見書（9ページ参照）

その他の議案

説 主に平成28年度決算の額の確定による繰越金の計上と、人件費の調整をするものです。

結 全会一致で可決されました。

●平成29年度介護保険事業特別会計予算の補正について
●平成29年度津久見市水道事業会計予算の補正について

医療特別会計予算の補正について

結 全会一致で同意されました。

九州旅客鉄道株式会社大分支社への要望活動

津久見市議会を代表し、黒田議長が12月26日にJR大分支社を訪れ、大分支社長に対し津久見駅の運転本数の増加についてなどを要望しました。



津久見駅の運転本数の増加に関する要望書

津久見市は、9月17日の台風第18号による集中豪雨で道路や河川などに甚大な被害を受けたところでございますが、同時に鉄道も被災し、日豊本線の佐伯・臼杵間が不通となっておりました。しかしながら、貴社のご尽力により12月18日に運転を再開していただき、心から感謝申し上げる次第でございます。

さて、去る12月15日に、来年3月17日からのダイヤ改正が発表され、津久見駅においては特急列車を含め上下線合計6本が減便されるとの内容がありました。

津久見駅の利用状況は、近年、減少することなく推移しているものと認識しております。今回のダイヤ改正で、津久見駅における特急列車を含めた上下線合計6本が減便されることにつきましては、市民生活に多大な影響があり、利便性を大きく低下させ、津久見駅の利用者を減らしかねないものと危惧しております。

津久見市議会としましては、今後も市民が安心して円滑に電車利用ができるよう、今回のダイヤ改正に対して反対の意思を表明するとともに、津久見駅の運転本数の増加を強く要望いたします。

平成29年12月26日

九州旅客鉄道株式会社
大分支社長 兵藤公顕様

津久見市議会

固定資産評価審査委員
佐藤智恵子氏

※12月議会では全議案を可認定・承認したので賛否表はありません。

3月定例会のご案内(予定)

3月

- 2日(金) 開会
- 12日(月) 一般質問
- 13日(火) 一般質問
- 14日(水) 常任委員会
- 15日(木) 常任委員会
- 16日(金) 常任委員会
- 23日(金) 採決・閉会

※ぜひ傍聴にお越しください。

市政を問う

一般質問

6議員が登壇
傍聴者延べ21名

12月定例会の一般質問は12月12日(火)、13日(水)に行われ、市政全般について一般質問をしました。なお、紙面の都合により、全てを掲載できませんので、ご了承ください。

災害復旧・復興について

黒木 章三

問 今後の計画とスケジュー
ルについて

答 台風18号による災害か

ら約3ヶ月が経ちました。

発災直後から被害情報の

収集・把握、緊急対策、応

急復旧など刻々と変わる状

況に応じて様々な対応に努

めており、現在も進行形で

行っているところです。今

後は、本格的な復旧・復興

に向けて取り組む必要があ

り、11月14日から公共土木災

害の災害査定が始まり、12

月4日から農業施設災害等

の査定も始まりました。今

後、順次査定を受け、平成

30年1月中旬までには全て

が終わる予定となつてあり、

査定が終わった個所から順

次、本格復旧に取り掛かつ

ています。これから本格的

な復旧・復興に取り組め

ます。が一番重要なことがあります。今後は、将来に向

で、市民がいかに安心して

生活再建や復興に取り組め

ます。今後は、将来に向

けます。



一般質問をする黒木章三議員

ほかに「津久見市の教育方針について、(1)全国学力・学習状況調査結果からの方針について、(2)個々の能力を伸ばす取り組みについて」質問しました。

て希望と夢と安心を持てる新しい本市の復興ビジョンを示すとともに、本市の創生と活力向上に「誇りと自信に満ちたまち津久見」につながる「津久見市復旧・復興計画」を策定して、本格的な復旧・復興に取り組んでいきたいと考えています。

徳浦川水系の大雨水対策について

井戸川 幸弘

問 新たなダム等の設置は大分県中部振興局が大久保川上流に治山ダム2基の設置を計画してあります。

答 徳浦川の凌濛については平の前アパートから老人介護施設付近までの土砂を臼杵土木事務所が応急工事として河床掘削しております。今後、土砂堆積の著しい箇所について掘削を行つ予定であるとのことです。

問 護岸のかさ上げについて

答 護岸のかさ上げをすることによって一定の効果が出るものと思われますが、どの程度のかさ上げが可能なのかどうかなどを地元関係者や河川管理者である臼杵土木事務所と十分協議したいと考えています。

ほかに「川野市長に関する設置について」

問 治山ダムの必要性や緊急性など検討しながら中部振興局と協議して行きます。



問…質問 答…答え

市政を問う

一般質問

6議員が登壇
傍聴者延べ21名

12月定例会の一般質問は12月12日(火)、13日(水)に行われ、市政全般について一般質問をしました。なお、紙面の都合により、全てを掲載できませんので、ご了承ください。

災害ボランティアセンターについて

谷本義則

問 台風18号災害により津久見市社会福祉協議会がボランティアセンターを立ち上げましたが、市との連携と支援について

答 市内は多くの被害を受け、すぐさま、市と社協と協議し9月19日にボランティアセンターを設置しました。社協は、初めての経験で県内全ての社会福祉協議会の協力で運営し、区長会や民生委員など地区社協関係者による被災者の支援一チームの掘り起こしなど行ってきました。津久見市はボランティアの受け入れが始まると、社協事務所内にある港出張所の職員で受付、高速道路料金の減免証明書の発行などを行い、別に県内では初めて市職員の派遣を行い、機材等の調整や、対策本部、区長、警察への連絡や協力要請を行い、他市の社協から大変評価をいたしました。他に、資機材の確保や必要な人件費をあわせてボランティアセンター設置負担金として1千15万円を支援しています。

ボランティアセンターの設置場所について

答 社協自身も被災し、設置が若干遅ましたが、駐車場の確保や社協の本部と被災地域が近いなどから社協、ふれあい交流センターに設置しました。(地震や津波等で社協事務所が使えない場合は代替の場所を考えていなければなりません。)

問 開設後の経過と今後の予定は 最終的に延べ7,263人のボランティアが土砂の撤去、貴家財の片付けを行いました。11月19日に閉鎖し、今後は関係団体と連携し、市内の団体へボランティアの登録をお願いし、今後の要請に対し支援を行っていきます。



ボランティアセンター

ほかに 環境対策 学校教育 水対策について質問しました。

台風18号による災害の影響について

高野幹也

問 庁舎建設の場所の選定や今後の予定について

答 庁舎建設の検討については、今回の災害を受けて、市内の復旧・復興対応を最優先で取り組んでいかなければならぬため、一時的な中断を余儀なくされたところです。

今後は、これまでの4候補地の議論をベースにして、今回被災による浸水状況などを含めたデータ収集を行い、様々な角度で検証した上で、専門家や市民の皆様の意見をあらためて確認する必要があると考えています。

また、来年度以降の復旧・

復興関連事業の予算配分、基金残高等の推移、庁舎建設における有利な起債制度の動向などにも注視していく必要があります。

いずれにしても、新庁舎建設については本市の最重要課題であるという認識を持つて

対応していきます。

国道217号バイパス事業及び市道徳浦松崎線バイパス事業について

高野幹也

問 平成30年度末完成を目指す国道217号バイパス事業及び市道徳浦松崎線バイパス事業の今後の予定は

答 平成29年7月に志手町で遺跡が発見されたことに加え、全国的な台風被害等の影響により、平成30年度末の完成は厳しいと言わざるを得ません。今後は、1日も早い完成を目指して、関係機関と協議しながら事業を進めていきます。

ほかに「中心市街地活性化の計画について」「人口の社会増減について」質問しました。



一般質問をする高野幹也議員

市政を問う

一般質問

6議員が登壇
傍聴者延べ21名

12月定例会の一般質問は12月12日(火)、13日(水)に行われ、市政全般について一般質問をしました。なお、紙面の都合により、全てを掲載できませんので、ご了承ください。

災害関連について

知念 豊秀



知念豊秀議員

問 今回の大災害に対し、津久見川・彦ノ内川大規模改修について、その概要と、また青江川や他の河川改修工事の基本方針、工事の発注方法について

答 津久見川・彦ノ内川については、県が事業主体になり河床掘削、河川の拡幅、橋梁の架け替え、護岸のかさ上げ、青江川やその他の河川については、河床掘削や橋等の災害復旧工事を進め、今後市の計画等、改修を含めた検討を考えています。

発注方法は、県に地元業者の指名をお願いしています。

問 青江川流域での赤木橋・道籠橋が崩壊した原因について

答 今回大量の土砂と立木が広範な流域から流出していると思われます。

被災直後に国交省の緊急災

問 被災者の生活・生業再建支援で公的支援の受けられなかつた人達への独自支援制度は作れませんか

答 市の支援として、石灰・消毒液の配布、ごみ処理手数料等各種手数料の減免、個人市民税・固定資産税・国保税・後期高齢者医療保険料・介護保険料・水道料の減免を行っています。それ以外にも活用できる貸付制度などの相談にも応じています。

ほかに「国保広域化と国保税値下げ」「入学準備金の早期支給」について質問しました。

被災直後に国交省の緊急災害対策派遣隊が調査をした結果、急激な増水により橋脚周りの洗掘が起こり転倒・落橋したと報告がありました。

害対策派遣隊が調査をした結果、急激な増水により橋脚周りの洗掘が起こり転倒・落橋したと報告がありました。

台風第18号について

森脇 千恵美



森脇千恵美議員

問 風水害の一時避難所の被災状況について

答 台風第18号による避難所の開設状況については、市が開設した避難所は、市民体育館ほか11箇所です。また、各地区自主防災会により公民館等の避難所を46箇所開設し、あわせて57箇所の避難所を開設しました。

57箇所の避難所のうち、台風第18号による被害としては、床上浸水2箇所となっています。今回の台風第18号による記録的な豪雨により、一部の避難所が被害を受けましたが、実際に避難者が移動を行ったのは、市役所大會議室の1箇所となっています。

その時の対応としては、浸水前に2階にある会議室に移動を行いました。今回の台風により被災した避難所を踏まえ市民

が安全に避難するにはどのような対策を講じれば良いのか、今後、区長や自主防災会と協議します。

ほかに「発達障がい児への支援について」「子育て支援施設及び学校施設の防犯について」質問しました。

ほかに「発達障がい児への支援について」「子育て支援施設及び学校施設の防犯について」質問しました。

津久見市議会の災害復旧に向けての活動

津久見市議会では、台風18号による災害復旧への取り組みとして以下の事を行いました。

○ 大分県への要望活動

津久見市議会を代表し、黒田議長が川野市長、古手川県議と共に11月16日に大分県庁を訪れ、広瀬知事に対し津久見川河川改修事業や井無田川などの砂防事業の早期着手についてなどを要望しました。



○ 12月議会開会日での国への意見書提出

今回の台風被害に対して国からの特別の財政支援を求める意見書を12月議会開会日(12/5)に議員全員で同意し、国へ提出しました。

平成29年9月台風第18号災害における特別の財政支援を求める意見書

平成29年9月17日に台風第18号がもたらした大雨は、津久見市では総雨量が500ミリを超え、市内全域で甚大な被害が発生した。

河川、漁港、港湾等の土木等公共施設や農林地、商店街及び住宅地などいたるところで大きな被害をもたらし、市民生活にも甚大な被害を及ぼしている。

国、県をはじめ関係機関の協力を得ながら、本市をはじめとする被災自治体は、住民の生活再建と地域社会の1日も早い復旧・復興に向けた取り組みが本格化しているところである。

しかし、本市にとって復旧・復興には長期間にわたる前例のない巨額な費用が必要となり、財政基盤の弱い被災自治体では十分な復興が困難なことも予想される。

よって、国におかれましては、下記の項目についてさらなる財政支援策に取り組まれるよう強く要望する。

記

1. 財政基盤の弱い被災自治体が財政面での不安なく復旧・復興に取り組める環境を整え、被災自治体の状況に応じた支援と復興後の自治体運営に影響を及ぼさないように、実効性のある補正予算の追加や地方交付税等による十分な財政支援を図ること。

*この他、9月議会以降に市議会と市執行部とで全員協議会などを数回行い、災害復旧について意見交換を行うと共に、社会文教建設常任委員会では被災した学校施設の復旧状況について現地視察を行いました。

社会文教建設常任委員会による 学校施設の台風被害現地確認

社会文教建設常任委員会では12月議会が始まる直前の11月28日・29日の2日間で学校施設を視察し、台風18号による被害状況ならびに復旧状況を確認しました。

そして12月議会では社会文教建設常任委員会において教育委員会ならびに市執行部と意見交換を行い、速やかな修復などを要望しました。



堅徳小学校
管理教室棟床上約60センチまで
浸水した職員玄関



青江小学校
水路からのオーバーフローした水の水圧及びフェンス基礎周辺の土が洗い流されたことによる倒壊



第二中学校
職員室内OAフロア内に浸水した水の除去作業



津久見小学校
特別教室棟で天井が雨漏りした
箇所を通行規制している廊下

災害見舞金をいただきました

9月17日の台風第18号被害に対して、津久見市議会に県内外の市議会等から見舞金をいただきました。

心からお礼を申し上げます。

寄せられました見舞金は、復旧、復興や被災者の支援に役立てます。

**見舞金を
いただいた
市議会等**

- ・全国市議会議長会
- ・島原市議会（長崎県）
- ・別府市議会
- ・日田市議会
- ・豊後高田市議会
- ・宇佐市議会
- ・九州市議会議長会
- ・大分市議会
- ・中津市議会
- ・竹田市議会
- ・杵築市議会
- ・国東市議会

(12月22日現在)



保戸島地区の急病人等の搬送に貢献してきた「つかさ」の船長金馬幹人氏にインタビュー

今回は長年にわたり、保戸島地区の急病人等の搬送に貢献してきた「つかさ」の船長金馬幹人氏にインタビューしました。

Q 急病人を搬送するという責任ある仕事に関わって何年になりますか。

A この船を魚客運搬船の許可を取って、平成元年に建造し、活魚の運搬を主にしていたが、島にあった医院が閉院し、個人的な依頼で急病人を市内に搬送したのが始まりですので、30年近くなります。

Q 海が荒れ、津久見まで行けない時もあると思うが、その時は。

A 以前はなんとか津久見まで行っていたが、四浦半島の道路も整備されたので、救急車に大元まで来てもらい、大元漁港で患者を引き渡します。

Q 年間の搬送回数は。

A 昼間ならドクターヘリも利用できるが、昨年で30回以上です。診療所が休みの日とか、医師の不在の夜間が多いです。

Q 無事救急車に引き渡した時の気持ちは。

A まずはホッとします。その後搬送した家族の方や、親戚の方からねぎらいの言葉をかけられた時が嬉しいですね。

Q 昨年の台風18号の後、孤立した四浦三地区の住民を津久見まで海上輸送したそうですが。

A 通船と交代で2日に1回津久見まで往復していました。

Q 趣味は何ですか。

A ゴルフとカラオケです。

金馬幹人氏は昨年末に臼杵津久見警察署から警察業務協力の感謝状が授与されています。また、平成24年には津久見市から離島救急搬送の功績が認められ功労者表彰されています。

議会の主な動き(10月～12月)

議員出席・参加行事及び会議

10月

- 3日 大分県市議会議長会議員研修会(大分市)
- 5日 9月定例会閉会
- 15日 第37回在京津久見人会(東京)
- 26日 第3回九州市議会議長会理事会(沖縄)



11月 ふるさと振興祭

11月

- 3日 文化の日功労者表彰式
並びに感謝状贈呈式
- 8日 決算特別委員会(～10日)
- 18日 第35回ふるさと振興祭(～19日)
- 19日 大分県消防大会(津久見市民会館)
- 23日 関西津久見会(大阪)
- 28日 商工従業員表彰式

12月

- 5日 12月定例会開会
- 8日 区長会から台風18号に関する要望書提出
- 10日 津久見市人権フォーラム
- 12日 一般質問(～13日)
- 14日 常任委員会(社会文教建設、総務)
- 15日 予算常任委員会
交通安全街頭キャンペーン
- 17日 つくみ冬まつり
- 22日 12月定例会閉会
臼津広域連合議会



12月 つくみ冬まつり

その他、議会運営委員会(3回)、全員協議会(2回)、議会協議会(2回)、議会活性化委員会(6回)、議会政策研究会(1回)、議会だより編集部会(3回)、また、議会閉会中に総務常任委員会(3回)開催しました。

思を力子らし保自雪など分えり入れ11年目を迎えました。子どもはそれぞが個性にあふれまさに十人十色です。そのなかで一人一人の子どもが「●自ら考りることができる●自ら行動できる●自分で責任がとれる」と環境設定し、子どもたちの自立を一番の目的として、無理でも長児は、川遊び自然遊び・ワッキング、自然活動等体験等の年長児は、川遊びなども子どもが生き生きと活動し楽しめる保育園では、ヨコミネ式教育法を取り入れています。地域に貢献していきたいです。子どもたちの「心の力」の育んでいきたいです。



白梅保育園では、ヨコミネ式教育法を取り入れ11年目を迎えました。子どもはそれぞが個性にあふれまさに十人十色です。そのなかで一人一人の子どもが「●自ら考りることができる●自ら行動できる●自分で責任がとれる」と環境設定し、子どもたちの自立を一番の目的として、無理でも長児は、川遊び自然遊び・ワッキング、自然活動等体験等の年長児は、川遊びなども子どもが生き生きと活動し楽しめる保育園では、ヨコミネ式教育法を取り入れています。地域に貢献していきたいです。子どもたちの「心の力」の育んでいきたいです。

つくみキッズ

市議会に
いただきました



(うばめ園さんから)